

対話支援機器「コミュニケーション」の 市内施設導入で難聴者支援を

川崎市議会議員 末永直

末永「末永です。お元気ですか?」。区民「ハアツ? 聞こえにくくてね、すみませんね」。地域を歩き、高齢の方と接していると、たまにある。それゆえ対策を打てないかと問題意識をもっていた。かかる中、対話支援機器「common (コミュニケーション)」の存在を知った。加齢による難聴者は音が聴こえないのではなく「音がこもって聴こえること言葉

として認識できない」ケースが大半。音を大きくして聴きやすいクリアな音へと変換する機器だ。300グラムと持ち歩きしやすい。厚生労働省や福岡市をはじめ全国の多くの自治体で導入されている。

大変興味深い。なぜか。これまで障害者の方々に対して聴こえること言葉

し、補助金を出さずから自力で機器を購入してがんばれ、といった障害者の自助努力に任せる在り方が主流だった。しかし、今は障害者差別解消法ができ、国の行政機関や地方公共団体等は、障害者に対し合理的配慮を行わなければならない法的義務が課せられた。障

害者に対して健常者からのアプローチで支援できるのがコミュニケーションだ。認知症にも有効だ。

どうにかして区役所や聾学校、病院等、川崎市に導入できないか。必ずや難聴者・高齢者の方々とのお話における窓口業務で役立つはず。そう思い、去る平成29年12月15日、議会で質問した。

「(コミュニケーション)高く評価されている。ケアマネージャーなどが在籍する在宅介護事業所との連携により、話し手側が聴こえやすい環境を創り出す実証実験が進められている。効果的な活用方法の発信につなげてまいりたい」と経済労働局長は答弁した。

次いで、実証実験を行う



末永直 プロフィール

- 国立佐賀大学大学院 教育学研究科卒業
- 参議院議員元秘書
- 昭和58年5月27日 34歳
- 政務活動事務所 千211-0034 中原区井田中ノ町42-10 問合せ先 ☎044-789-5823



持ち歩きもラクなコミュニケーション

予算議会が2月13日から3月16日にかけて行われる。税金が市民区民の為に有効に使われるよう、しっかりと臨んで参る所存だ。